



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-6-20 第656回例会 NO. 14-45 2004-6-23 発行

東京多摩ロータリー・クラブ

創立35周年記念行事

(第656回例会振替)

2004年6月20日開催

第一部 13:00~15:00

<記念演奏会> パルテノン多摩大ホール

演奏: 陸上自衛隊東部方面音楽隊

(司会) 3等陸曹 野口由利枝

第1部 指揮/ 2等陸尉 水木 勝行

- 1 キャンディード序曲
- 2 ミュージカル・トースト
- 3 双頭の鷲の旗の下に
- 4 ヴァルドレス
- 5 トウルース
- 6 クリフォードブラウンの思い出
- 7 サンバ・デ・アイーダ

第2部 指揮/ 2等陸佐 古荘浩四郎

- 1 サモン・ザ・ヒーロー
 - 2 組曲「道化師」より
 - 3 川の流れのように
 - 4 ファイナル・ファンタジー
 - 5 ディズニー・ソング・ブック
- ・・・アンコールに応じて3曲・・・

第二部 15:30~16:30

<記念式典> パルテノン多摩小ホール

(総合司会) 幹事 小暮 知則

- ・開会点鐘 会長 志村 光明
- ・国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
ソングリーダー 関戸 達也
ピアノ伴奏 大熊 妙子様

- ・来賓紹介 会長 志村 光明
- ・物故会員に黙禱 会長 志村 光明
- ・歓迎の言葉 会長 志村 光明



- ・祝辞 国際ロータリー第2750地区ガバナー
鈴木 正二様
多摩市長 渡辺 幸子様
東京府中RC会長 高橋 晴彦様
- ・創立35周年記念事業経過報告と発表
(進行) 小西 弘純
- ① 記念事業経過報告と発表
記念事業実行委員長 岡野 一馬
- ② 東京多摩プロバスクラブ設立趣旨説明
設立準備委員長 小西 弘純
- ③ 東京多摩プロバスクラブ
初年度役員理事及び会員紹介
東京多摩プロバスクラブ会長 蓮池 守一
- ④ プロバス旗及びバッジ贈呈
志村会長よりプロバスクラブ蓮池会長へ
- ・寄付金贈呈
ロータリー財団・米山記念奨学会

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

ガバナー 鈴木 正二様
ポリオ・プラス募金

- パストガバナー 川尻 政輝様
(アシスタント) 米山奨学生 沈 修卿様
- ・皆出席者表彰状贈呈 会長 志村 光明
由井 重光会員 35年、高取 渡会員 32年
林 彰一会員 16年
 - ・閉会挨拶 会長エレクト 井上 好弘
 - ・閉会点鐘 会長 志村 光明



第三部 17:30~19:30

- <記念祝賀会> 京王プラザホテル多摩「白鳳の間」
- 祝辞 パストガバナー 秋山 一様
衆議院議員 伊藤 公介様
 - 乾杯 ガバナーエレクト 仲田 順和様
 - <祝 宴>
 - 閉宴挨拶 パスト会長 石坂 文夫
「手にてつないで」
 - ソングリーダー 関戸 達也



<閉 宴>

(会報担当: 澄川 昇、赤尾 恭雄)

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員会

- ・会員総数 42名
- ・出席義務者数 40名(出席免除者3名)
- ・出席者数 29名
- ・欠席者数 11名(事前MU0名)
- ・出席率 72.5%
- ・欠席者: 萩生田政由、桧垣 昭、小泉 博、
小坂 一郎、正房 正孝、小田 泰機、
高木 淳光、高村 弘、高野 範城、
津守 弘範、由井 眞司
- ・補填MU: なし

6/2 最終訂正出席率 82.93%



―旅路の果てに―

さて、私（ポール）とジーンの旅路も終わりに近づきました。今夜も炉辺に座って、2人でお茶を飲んでます。スコットランドの女性を嫁に貰うと、炉辺に座って紅茶を飲むのが習慣になります。これは、一日が終わった後の、楽しい休息の時間です。もし、お茶がおいしくて、炉の火が程よく燃えていれば、身体も休まり、元気も出ます。寝る前の素敵なしとときです。

家内（ジーン）の右手の所には、保温カバーの掛かったポットがあって、お茶は冷めません。お茶を注ぐのは家内の最大の楽しみです。イギリスを始め諸外国から見えたお客様にも、随分お茶を上げました。この習慣は、社交的で友好を深める上からも、良い習慣です。家内が力を込めてフイゴを動かすと、火花が煙突からパッと上がります。炉に火を入れたり、薪をくべたり、パチパチと心地よく暖炉を焚くのも、家内の仕事で、人手は借りません。

“カムリー・バンク”の団欒の女王、紅茶の女王は家内のジーンで献身的なところは、祖母にも負けないと思うことがあります。私は本当に幸運な男です。私は何時も、此处で、この時間に、物思いに耽るのです。もっとも、ジーンに言わせると、私が物思いに耽りだすと、決まってるた寝を始め、そして、直ぐに昏睡状態になるそうです。

世界の各地から訪ねてくれた、沢山の友達がこの暖炉を囲んで、我々二人を楽しませてくれました。1905年に私が植えた苗木が実を結んだのです。最初のロータリー・クラブは苗だったのです。その苗は今や大木に育って、その木陰は格好の、住みかになりました。

今晩は自然に、祖父母や私の少年時代、そして我が谷間の思い出に耽ってしまいました。山には楽しい音楽があります。“リズムカルな木こりの斧の響き、牧場の牛の鳴き声、納屋で卵を生んでクウクウと知らせている雌鳥、コケッココと夜明けを知らせる雄鳥、つぐみ、こうらい鶯、駒鳥、姫鳥や、みそさざいのコーラス。遠くの方では、恋に破れた鳩が、クククと悲しそうに鳴いています。ずうっと下の谷間では、野ひばりが澄んだ声を張り上げて、彼女を呼んでいます。線路脇の沼地では、凄く大袈裟な牛蛙が、恋思いにかかって、腹を大きく膨らませ、春の恋歌を歌っています。”

夏の終わりに、蟬を始め何千という虫たちが一斉に、ジイジイ、ブンブン、大きな声を張り上げて合唱するのは見ものです。

初秋には、こおろぎと、きりぎりすが、夜通し鳴き続けて、楓が紅葉し始めたことを知らせてくれます。間もなく全山色づくことでしょう。やがて、人々が寝静まった夜、神秘的な冬が、静かに谷間に忍び込んできます。



そして、春の復活祭まで、真白い雪の毛布で、戸外の総ての物を優しく、暖かく包んでくれるのです。

こんなことを、どの位夢見ていたでしょう。突然声が出て、目が覚めました。「おや、また寝ていたのね、ポール。お起きになってお茶を一杯いかが。暖炉の火も細くなったわ。もう、休憩時間よ。」

こうして“カムリー・バンク”の夜は更けるのです。

.....

おお神様、人間の長所や国家の良い点は目に付くように、短所や欠点は目に入らないように、お守り下さい。

ポール・P・ハリス

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編
「BY EACH ROTARIAN, BY EVERY ROTARIAN
EACH TIME, EVERY TIME」

我々の手近にあるロータリー活動の一つのベースについて考えてみたいと思います。先ずロータリー活動の原点は何か。皆さんから些か反対を受けるかも知れませんが、私が考えていますのは、“BY EACH ROTARIAN, BY EVERY ROTARIAN”ということです。とにかく一人一人のロータリアンがすべて、EACH TIME, EVERY TIME, 要するに或る瞬間瞬間において、そして24時間総ての時間において、職業人としては社会に対し、また他人に対して最善を尽くすのがロータリー活動の原点でなければならないと思います。最近やゝもすれば、R. I. としての活動あるいは地区としての活動そしてまたクラブとしての活動が恰もロータリーの活動の如くに取られて、基本であるロータリアン一人一人のあらゆる瞬間瞬間における、職業人として社会に対してまた他人に対して最善を尽くす、極めて地味なロータリー活動がどうも表に出ていないと思います。そしてクラブでお金を集めて寄付をしたとか、地区で何をしたとか、私は決してその事自体反対するのでは無いのですが、やれ3Hでこうした、やれ世界社会奉仕でああしたという事だけがやたらに表面に出されています。一人一人のロータリアンのあらゆる瞬間におけるロ

ロータリーのサービス活動に対するバランスがどんどん崩れて行っている様な気がします。これは一度考え直すべき時期に来ているのではないかと思います。何故ロータリーバッジをいつも着けるようにと言われるのかといえば、「私はロータリアンです。だからロータリーの綱領に従って毎日24時間活動しているのです。」ということをも自分にもいい聞かせ、他人に対してもこれを示しているのです。だからバッジを何時も着けなさいと言われるのです。

〔附〕3-H プログラム Health, Hunger and Humanity Program

R. I. 理事会は1977～78年度に保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金プログラムを設立し、1982～83年度にロータリー財団に引き継がれました。この目的は国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展をはかることです。

また、3-Hプログラムは、さまざまな準備を整えたり、寄贈ワクチンの輸送費を支払ったりします。3-Hプログラムはロータリー財団のプログラムで、補助金の額は10万ドルから50万ドルまでです。

堀場雅夫氏の「ロータリーこれでよいのか」より。
京都 R. C. (P. D. G) (1983年関西ロータリー研究会にて)
(コーナー担当 遠藤 二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

6月号 《R I 会長メッセージ》

100周年に手を貸そう

R I 会長 ジョナサン B. マジリアベ 氏
親愛なる同僚ロータリアンの皆さん、R I 会長としての最終月を迎えるに当たり、この2003-04年度にいただいた皆様からの協力や励ましに対する感謝の言葉を、どのように書き始めようかと思悩んでいます。私がかぶっているシカゴの野球帽の話からでも始めることにしましょう。これは、2005年に私たちが100周年を祝う、ロータリー発祥の地への敬意の表現でもあります。

・ロータリー家族からの恩恵

今年度、私が協調したことの一つは、ロータリー家族でした。しかし、私の任期の初めころには、この提案から私自身がどのような恩恵を受けるかを予見することができませんでした。一年前、私の愛妻のアデが亡くなったとき、世界中のロータリアンの皆さまから寄せられた慰めやお悔やみの数々は、疑いもなくロータリーが本当に巨大な家族であることを示していました。私自身の家族を代表して、女性と子供のための教育に充てられる、「アデ希望基金」にご厚情をお寄せいただいた方々に、お礼を申し上げたいと存じます。ロータリー財団のこの特別基金を通じて、生産的で独立した世界市民となるための教育を受けることになる、数多くの女性や子どもた

ちとともに、アデの思い出は生き続けていくことでしょう。

・手を貸そうは素朴な優しさの表現

また、今年度のR I テーマである「手を貸そう」が、多くのロータリアンたちからの深い共感を得たこともうれしく思っています。さまざまな国境や文化の壁を越え、ロータリーの本質をとらえるということは、自然な優しさの現れです。この言葉の真意は、人道主義や他人への奉仕を議論するとき、いつの時代にも、世代に関係なく、繰り返して語られてきました。たとえば、よく知られた作家で、1900年代初めの上院付牧師でもあったエドワード・エベレット・ヘールが、かつて「見下すのではなく尊敬しよう。後悔するのではなく、前を見よう。内を見るのではなく外に目をむけよう。さあ手を貸そう」と書いているということ、最近、あるロータリアンが教えてくれました。ロータリーの創始者ポール P. ハリスも、『THE ROTARIAN』の1912年9月号に「私たちが暮らしている地域社会の幸せに無頓着であったり、人々の関心事を実行するのに手を貸すのを嫌がるようであってはならないというのは当然のことである」と書いています。今日のロータリアンたちが、そのような気概と熱心さをもった考え方をとりいれるのも不思議なことではないのです。

・ロータリー親睦活動でともに奉仕を

そしてまた、ロータリー年度の最後の月を、ロータリー親睦活動、すなわち、共通の楽しみ、職業、そしてロータリーの綱領の第1の概念を実行するという関心を共有するロータリアンたちに、その機会を提供する国際的グループに捧げるのがふさわしいでしょう。それらは、奉仕の機会をともにする仲間たちなのです。私は地区やクラブが会員たちに親睦活動に加わるよう奨励することを切にお願いしたいと思います。それはロータリーでの経験を促進し、強力な会員増強と退会防止の道具となります。ロータリアンの皆さん、毎号このページに書いてきた、私にとっての最後の手紙を書き終えるときがきました。今年一年、皆様方のために尽くすことができたことを名誉なことと思います。そして、この機会が与えられたという謙虚な喜びは、生き続けていくことでしょう。

もう一つのすばらしいR I 国際大会が、私たちには控えています。私たちが歴史的な100周年に向かって前進するためにも、必要となる所に手を貸そうとすることを決してためらわないでください。本当にありがとうございました。

(コーナー担当:高木 淳光、正房 正孝)